



第22回 定時株主総会 招集ご通知

2017年3月1日から2018年2月28日まで

株主総会参考書類
招集ご通知添付書類

- 事業報告
- 連結計算書類
- 計算書類
- 監査報告

開催情報

日時：2018年5月15日（火曜日）

午前 9 時 受付開始

午前10時 開会

場所：東京都江東区有明三丁目7番11号

東京ベイ有明ワシントンホテル 三階アイリスの間



株式会社イオンファンタジー

証券コード：4343

株主の皆さまへ

千葉県美浜区中瀬一丁目5番地1

株式会社イオンファンタジー

代表取締役社長 片岡 尚

第22回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社第22回定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご出席賜りますようご通知申し上げます。

なお、当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。また、当日ご出席いただけない場合は、書面によって議決権を行使することができますので、お手数ながら後記の株主総会参考書類をご検討くださいますようお願い申し上げます。2018年5月14日（月曜日）午後6時までには到着するようご返送くださいますようお願い申し上げます。

敬 具

記

1. 日 時 2018年5月15日（火曜日）午前10時
2. 場 所 東京都江東区有明三丁目7番11号
東京ベイ有明ワシントンホテル 三階アイリスの間
※午前9時から受付を開始いたします。
3. 目的事項
報告事項
 1. 第22期（2017年3月1日から2018年2月28日まで）事業報告の内容および連結計算書類の内容ならびに会計監査人および監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
 2. 第22期（2017年3月1日から2018年2月28日まで）計算書類の内容報告の件
- 決議事項
 - 第1号議案 定款一部変更の件
 - 第2号議案 取締役9名選任の件
 - 第3号議案 監査役1名選任の件

以 上

◆インターネット開示のご案内

連結計算書類の「連結注記表」および計算書類の「個別注記表」は、法令および定款第15条の規定に基づき、インターネット上の当社ウェブサイト（<https://www.fantasy.co.jp/>）に掲載しておりますので、株主総会招集ご通知添付書類には記載しておりません。

したがって、本招集ご通知の添付書類は会計監査人および監査役が会計監査報告および監査報告を作成するに際して監査をした連結計算書類および計算書類の一部であります。

◎事業報告、連結計算書類、計算書類および株主総会参考書類に修正すべき事情が生じた場合は、インターネット上の当社ウェブサイト（<https://www.fantasy.co.jp/>）に掲載させていただきます。

議決権行使に関するお願い

A 当日ご出席の場合



同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出ください。（ご捺印は不要です。）また、議事資料として本冊子をご持参ください。

B 書面による議決権の行使の場合



同封の議決権行使書用紙に賛否をご表示の上、2018年5月14日（月曜日）午後6時までに到着するようご返送ください。

目次

招集ご通知	1
株主総会参考書類	3
(添付書類)	
事業報告	15
連結計算書類	
連結貸借対照表	39
連結損益計算書	40
連結株主資本等変動計算書	41
計算書類	
貸借対照表	42
損益計算書	43
株主資本等変動計算書	44
監査報告	
連結計算書類に係る会計監査報告	45
計算書類に係る会計監査報告	46
監査役会の監査報告	47

株主総会参考書類

第1号議案 定款一部変更の件

1. 提案の理由

今後の事業展開に備えるため、現行定款第2条（目的）につきまして、事業目的を追加するとともに、その他所要の修正を行うものであります。

2. 変更の内容

変更の内容は、次のとおりであります。

（下線部は変更箇所であります）

現行定款	変更案
<p>第2条（目的）</p> <p>当社は、次の事業を営むことを目的とする。</p> <p>1.～2.（条文省略）</p> <p>3.玩具、清涼飲料水、パン・菓子等の食料品、衣料品、日用品雑貨、装飾品雑貨、民芸品、キャラクター商品（個人的な名称や特徴を有している人物、動物等の画像を付けたもの）、遊戯景品の企画、製造、販売、輸出入及び物流業務</p> <p>4.～9.（条文省略）</p> <p>10.プレイガイド、学習塾、飲食店、映画館、劇場、スポーツ施設、文化教室、託児所、写真館、カラオケスタジオ、ビリヤード場等の娯楽施設の経営</p> <p style="text-align: center;">（新設）</p> <p>11.～19.（条文省略）</p>	<p>第2条（目的）</p> <p style="text-align: center;">（現行どおり）</p> <p>1.～2.（現行どおり）</p> <p>3.玩具、清涼飲料水、パン・菓子等の食料品、衣料品、日用品雑貨、<u>電気製品、家具製品、化粧品、</u>装飾品雑貨、民芸品、キャラクター商品（<u>個性的な名称や特徴を有している人物、動物等の画像を付けたもの</u>）、遊戯景品の企画、製造、販売、輸出入及び物流業務</p> <p>4.～9.（現行どおり）</p> <p>10.プレイガイド、<u>映画館、劇場、スポーツ施設</u> <u>カラオケスタジオ、ビリヤード場、まあじゃん屋等の娯楽施設の経営</u></p> <p>11.<u>学習塾、飲食店、文化教室、託児所、写真館、公衆浴場、エステティック及びリラクゼーションの経営</u></p> <p>12.～20.（現行どおり）</p>

第2号議案 取締役9名選任の件

取締役全員（10名）は、本総会の終結の時をもって任期満了となります。つきましては、取締役9名の選任をお願いするものであります。

取締役候補者は次のとおりであります。

ふじわら のぶゆき
1 藤原 信幸

再任

生年月日	1968年 8 月20日	所有する当社の株式数	4,100株
略歴、地位、担当および重要な兼職の状況	2004年 5 月 当社入社 2012年 1 月 永旺幻想（北京）児童遊楽有限公司（現永旺幻想（中国）児童遊楽有限公司） 董事総経理 2013年 1 月 同社董事長総経理 2014年 1 月 同社董事長 2015年 9 月 当社中国事業責任者（現任） 2017年 5 月 当社取締役（現任）		
取締役候補者の選任理由	藤原信幸氏は、長年にわたり海外事業に携わり、成長戦略の実現を推進してまいりました。これまでの豊富な経験と知識に基づき、成長戦略の実現を図り、企業価値の向上にさらに寄与するものと判断しましたので、同氏を引き続き取締役候補者といたしました。		
特別の利害関係	藤原信幸氏と当社との間には、特別の利害関係はありません。		

2 新田 悟

再任

生年月日	1959年 1 月 5 日	所有する当社の株式数	2,500株
略歴、地位、担当および重要な兼職の状況	<p>1981年 3 月 北陸ジャスコ株式会社（現イオン株式会社）入社 2010年 5 月 イオンアイビス株式会社アカウントティングサポート業務部長 2011年 5 月 当社財經本部長 2012年 4 月 当社財經・管理本部長 2012年 5 月 当社取締役 2013年 5 月 当社常務取締役管理統括兼リスクマネジメント担当（現任） 2017年 3 月 永旺幻想（中国）児童遊楽有限公司監事（現任） 2017年 4 月 AEON FANTASY GROUP PHILIPPINES,INC.取締役（現任） 2017年 4 月 PT.AEON FANTASY INDONESIA監査役（現任） 2017年 7 月 AEON FANTASY VIETNAM CO.,LTD.監査役（現任）</p> <p>（重要な兼職の状況） 永旺幻想（中国）児童遊楽有限公司監事 AEON FANTASY GROUP PHILIPPINES,INC.取締役 PT.AEON FANTASY INDONESIA監査役 AEON FANTASY VIETNAM CO.,LTD.監査役</p>		
取締役候補者の選任理由	<p>新田悟氏は、長年にわたり財務・経理・会計分野に携わり、現在は財經・内部統制・リスクマネジメント等の業務を執行しております。これまでの豊富な経験と知識に基づき、財務成長戦略の実現を図り、企業価値の向上にさらに寄与するものと判断しましたので、同氏を引き続き取締役候補者といたしました。</p>		
特別の利害関係	<p>新田悟氏と当社との間には、特別の利害関係はありません。</p>		

ふじわら とく や
3 藤原 徳也

再任

生年月日	1970年 6 月 5 日	所有する当社の株式数	500株
略歴、地位、担当および重要な兼職の状況	2000年 3 月 当社入社 2008年 3 月 当社商品本部機械グループチーフマネジャー 2009年 3 月 当社商品本部メダルグループチーフマネジャー 2010年12月 当社商品本部長代行 2011年 9 月 当社商品本部長 2013年 3 月 当社商品開発本部長 2013年 5 月 当社取締役 2017年 3 月 当社グローバル商品・新規事業統括（現任） 2017年 5 月 当社常務取締役（現任）		
取締役候補者の選任理由	藤原徳也氏は、長年にわたり商品分野に携わり、商品戦略の実現を推進してまいりました。これまでの豊富な経験と知識に基づき、事業成長戦略の実現を図り、企業価値の向上にさらに寄与するものと判断しましたので、同氏を引き続き取締役候補者といたしました。		
特別の利害関係	藤原徳也氏と当社との間には、特別の利害関係はありません。		

たむら よしひろ
4 田村 純宏

再任

生年月日	1968年 5 月 5 日	所有する当社の株式数	5,200株
略歴、地位、担当および重要な兼職の状況	<p>1993年12月 ジャスコ株式会社（現イオン株式会社）入社 2008年 3 月 当社商品本部景品グループチーフマネジャー 2009年 3 月 当社商品本部プライズグループチーフマネジャー 2011年 2 月 当社西日本事業本部長 2012年 4 月 当社西日本営業本部長 2012年 5 月 当社取締役（現任） 2013年12月 当社西日本営業本部長兼新規事業開発本部長 2014年 5 月 当社営業統括兼新規事業開発本部長 2014年 9 月 当社営業統括 2015年 5 月 当社西日本営業本部長 2015年 9 月 当社営業企画本部長 2016年 5 月 当社営業統括 2017年 5 月 当社開発本部長（現任）</p>		
取締役候補者の選任理由	<p>田村純宏氏は、長年にわたり商品・営業分野などに携わり、現在は開発本部長として、成長戦略の実現を推進しております。これまでの豊富な経験と知識に基づき、事業成長戦略の実現を図り、企業価値の向上にさらに寄与するものと判断しましたので、同氏を引き続き取締役候補者といたしました。</p>		
特別の利害関係	<p>田村純宏氏と当社との間には、特別の利害関係はありません。</p>		

5 かじ た しげる 梶田 茂

再任

生年月日	1958年10月25日	所有する当社の株式数	1,000株
略歴、地位、担当および重要な兼職の状況	<p>1981年11月 ジャスコ株式会社（現イオン株式会社）入社</p> <p>2007年 3月 タルボットジャパン株式会社管理本部長</p> <p>2008年 3月 泰波姿（上海）商貿有限公司総経理</p> <p>2009年 5月 当社人事グループチーフマネジャー</p> <p>2012年 4月 当社人事総務本部長兼リスクマネジメント担当</p> <p>2013年 5月 当社取締役（現任）</p> <p>2013年 5月 当社グローバル事業推進本部長</p> <p>2014年 9月 当社アセアン事業責任者</p> <p>2016年 3月 当社西日本営業本部長</p> <p>2017年 5月 当社営業統括（現任）</p>		
取締役候補者の選任理由	<p>梶田茂氏は、長年にわたり人事総務・海外事業に携わり、現在は国内事業の統括として、成長戦略の実現を推進しております。これまでの豊富な経験と知識に基づき、事業成長戦略の実現を図り、企業価値の向上にさらに寄与するものと判断しましたので、同氏を引き続き取締役候補者といたしました。</p>		
特別の利害関係	<p>梶田茂氏と当社との間には、特別の利害関係はありません。</p>		

6 たかの きょうこ 高野 恭子

再任

生年月日	1963年11月 2 日	所有する当社の株式数	1,020株
略歴、地位、担当および重要な兼職の状況	2002年 2 月 当社入社 2014年 3 月 当社人事総務本部人事グループゼネラルマネジャー 2014年 5 月 当社取締役（現任） 2015年 5 月 当社人事総務本部長 2018年 3 月 当社人事本部長（現任）		
取締役候補者の選任理由	高野恭子氏は、人事分野に携わり、人事戦略の実現を推進してまいりました。これまでの豊富な経験と知識に基づき、人事戦略の実現とダイバーシティを推進し、企業価値の向上にさらに寄与するものと判断しましたので、同氏を引き続き取締役候補者といたしました。		
特別の利害関係	高野恭子氏と当社との間には、特別の利害関係はありません。		

生年月日	1977年 3 月 7 日	所有する当社の株式数	一株
略歴、地位、担当および重要な兼職の状況	<p>2003年 3 月 当社入社</p> <p>2012年 2 月 当社業態開発グループゼネラルマネジャー</p> <p>2013年 5 月 当社グローバル事業推進本部長代行</p> <p>2014年 8 月 当社新規事業開発本部長代行</p> <p>2016年 3 月 当社アセアン事業責任者兼インドアプレイグラウンド事業部長（現任）</p> <p>2016年 4 月 AEON Fantasy (Thailand) Co.,Ltd.取締役（現任）</p> <p>2016年 4 月 PT.AEON FANTASY INDONESIA取締役（現任）</p> <p>2016年 4 月 AEON FANTASY GROUP PHILIPPINES,INC.取締役（現任）</p> <p>2016年 6 月 AEON FANTASY (MALAYSIA) SDN.BHD.取締役会長（現任）</p> <p>2017年 5 月 当社取締役（現任）</p> <p>（重要な兼職の状況）</p> <p>AEON FANTASY (MALAYSIA) SDN.BHD.取締役会長</p> <p>AEON Fantasy (Thailand) Co.,Ltd.取締役</p> <p>PT.AEON FANTASY INDONESIA取締役</p> <p>AEON FANTASY GROUP PHILIPPINES,INC.取締役</p>		
取締役候補者の選任理由	<p>小岩渉氏は、長年にわたり事業開発分野に携わり、成長戦略の実現を推進してまいりました。現在はアセアン事業の責任者として、また国内外のインドアプレイグラウンド事業の業務執行を兼務しております。これまでの豊富な経験と知識に基づき、事業成長戦略の実現を図り、企業価値の向上にさらに寄与するものと判断しましたので、同氏を引き続き取締役候補者といたしました。</p>		
特別の利害関係	<p>小岩渉氏と当社との間には、特別の利害関係はありません。</p>		

おお や かず こ 8 大矢 和子

再任

社外取締役候補者

独立役員候補者

社外取締役就任年数

5年

生年月日	1950年 9 月 5 日	所有する当社の株式数	－株
略歴、地位、担当および 重要な兼職の状況	1973年 4 月 株式会社資生堂入社 2001年 6 月 同社執行役員 2007年 6 月 同社常勤監査役 2010年 6 月 東京電力株式会社社外監査役 2011年 5 月 公益財団法人資生堂社会福祉事業財団理事長（現任） 2011年 6 月 株式会社資生堂顧問 2011年12月 株式会社エムティーアイ社外監査役（現任） 2013年 5 月 当社社外取締役（現任） 2013年 7 月 朝日生命保険相互会社社外取締役（現任） 2015年 6 月 株式会社ミライト社外監査役（現任） 2015年10月 国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構監事（現任） （重要な兼職の状況） 公益財団法人資生堂社会福祉事業財団理事長 朝日生命保険相互会社社外取締役 株式会社エムティーアイ社外監査役 株式会社ミライト社外監査役 国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構監事		
社外取締役候補者の 選任理由	大矢和子氏は、世界各国に事業展開する企業の経営者や監査役を務めるなどグローバルな企業経営における豊富な経験と高い見識に基づき、取締役会の審議において、当社の経営に関する重要な事項について、積極的な意見・提言を行っております。これらのことから、継続して当社の経営を監督していただくことが最適と判断しましたので、同氏を引き続き社外取締役候補者といいたしました。		
特別の利害関係	大矢和子氏と当社との間には、特別の利害関係はありません。		

こ かげ あきら
9 小風 明

再任

社外取締役候補者

独立役員候補者

社外取締役就任年数

1年

生年月日	1954年 9 月12日	所有する当社の株式数	－株
略歴、地位、担当および 重要な兼職の状況	1979年 4 月 警察庁入庁 1985年 7 月 国税庁須磨税務署長 1990年 2 月 在ドイツ連邦共和国日本国大使館一等書記官 1998年 6 月 通商産業省東北通商産業局（現経済産業省東北経済産業局）総務企画部長 2007年 8 月 茨城県警察本部長 2011年10月 九州管区警察局長 2012年10月 日本証券業協会特別参与 2015年 5 月 国際剣道連盟理事（現任） 2015年 7 月 日本オリンピック委員会理事（現任） 2016年11月 明治安田生命保険相互会社顧問（現任） 2017年 5 月 当社社外取締役（現任） 2017年 6 月 全日本剣道連盟監事（現任） 2017年 9 月 日本スポーツ仲裁機構理事（現任） （重要な兼職の状況） 国際剣道連盟理事 日本オリンピック委員会理事 明治安田生命保険相互会社顧問 全日本剣道連盟監事 日本スポーツ仲裁機構理事		
社外取締役候補者の 選任理由	小風明氏は、過去に直接企業経営に関与した経験はありませんが、長年にわたり警察行政の要職や他官庁に出向するなど豊富な経験と高い見識を有しております。取締役会の審議において、当社の経営に関する重要な事項やリスク管理ならびにコンプライアンスについても意見・提言をいただき、当社の経営を監督していただくことが最適と判断しましたので、同氏を引き続き社外取締役候補者といたしました。		
特別の利害関係	小風明氏と当社との間には、特別の利害関係はありません。		

- (注) 1. 当社は、大矢和子氏および小風明氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として同取引所に届出しております。両氏の再任が承認された場合は、当社は引き続き両氏を独立役員とする予定であります。
2. 当社は、大矢和子氏および小風明氏との間で、会社法第423条第1項の責任につき、善意でかつ重大な過失がないときは、法令が規定する額を限度額として責任を負担する旨の契約を締結しており、両氏の再任が承認された場合は、当社は引き続き両氏と同契約を継続する予定であります。
3. 社外取締役就任年数は、本総会終結時の年数になります。
4. 上記「略歴、地位、担当および重要な兼職の状況」の欄には、当社の親会社であるイオン株式会社およびその子会社における現在または過去5年間の業務執行者であるときの地位および担当を含めて記載しております。

第3号議案 監査役1名選任の件

監査役平野雅彦氏は、本総会の終結の時をもって辞任により退任されますので、新たに監査役1名の選任をお願いするものであります。その任期は定款の定めにより、前任者の残存期間となります。

なお、本議案につきましては、監査役会の同意を得ております。

監査役候補者は次のとおりであります。

いとう かつひこ
伊藤 克彦

新任

生年月日	1960年12月24日	所有する当社の株式数	一株
略歴、地位および重要な兼職の状況	1983年4月 ジャスコ株式会社（現イオン株式会社入社） 2000年11月 同社つくば店店長 2003年2月 同社今市店店長 2005年3月 ローラアシュレイジャパン株式会社出向 2008年4月 同社取締役 2011年5月 イオン株式会社福建省PTリーダー 2011年10月 イオンストアーズ香港出向 福建省PTリーダー 2013年11月 広東ジャスコ（現広東イオン）出向 2014年5月 タルボットジャパン株式会社取締役 管理本部長 2016年4月 株式会社メガスポーツ事業推進部長 2017年4月 イオン株式会社サービス・専門店事業担当付（現任）		
監査役候補者の選任理由	伊藤克彦氏は、長年にわたりイオングループ国内外の事業に携わり、成長戦略の実現を推進してまいりました。これまでの豊富な経験と幅広い見識を生かし、経営全般における監督と有効な助言をいただけるものと考え、同氏を監査役候補者といたしました。		
特別の利害関係	伊藤克彦氏と当社との間には、特別の利害関係はありません。		

(注) 上記「略歴、地位および重要な兼職の状況」の欄には、当社の親会社であるイオン株式会社およびその子会社における現在または過去5年間の業務執行者であるときの地位および担当を含めて記載しております。

以上

(添付書類)

事業報告

(2017年3月1日から
2018年2月28日まで)

1. 企業集団の現況

(1) 当連結会計年度の事業の状況

① 事業の経過およびその成果

当社は2017年4月12日に中期経営計画（2017年度～2019年度）を発表し、ビジョンを「遊びを通じて、“家族の笑顔”“憩い”そして“子どもの健やかな成長”を提供するファミリーエンターテインメント企業」と再設定いたしました。2018年2月期は、その計画を達成すべく成長拡大に向け取り組んでまいりました。

2018年2月期は、国内において好調部門の更なる拡充を図るとともに、店舗活性化の推進に取り組みました。また、海外においても新規出店を推進する一方、国内、海外ともに不採算店舗の閉店を実施いたしました。これにより2018年2月末の店舗数は、国内459店舗、海外389店舗の合計848店舗（直営店840店舗、FC等8店舗）となりました。

当期の連結業績は、売上高は721億74百万円（前期比10.9%増）と国内既存店が好調に推移していることや、海外での出店による売上拡大などにより7期連続の増収かつ過去最高となりました。営業利益は59億70百万円（同58.4%増）と、各セグメントとも大幅な増益により連結で4期連続の増益、経常利益は55億98百万円（同60.0%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は29億86百万円（同75.9%増）と、いずれも2007年2月期以来11年ぶりの過去最高となりました。また、中期経営計画（2017年度～2019年度）の3年目の利益計画を初年度である当期で達成いたしました。

【国内事業】

国内事業は、遊戯機械売上が年間を通して好調に推移し、当期の既存店伸び率は10.3%増となり、2015年9月より30ヶ月連続でプラスとなりました。部門別ではプライズ部門が既存店伸び率20.2%増と、引き続き大きく伸ばしております。お菓子メーカーや映画作品、人気YouTuberとのコラボなどによる当社限定のオリジナル景品を導入拡大したこと、YouTubeでの当社関連動画の年間再生回数が9,000万回を超えたことが、売上の底上げに貢献いたしました。

新たな取り組みとして4月に導入した「よくばりパス」（一定時間を定額で遊び放題）はお客さまより好評価を得ております。新会員制度「モーリーフレンズ」は、順調に会員数が増加いたしました。新業態としては、人気幼児番組をテーマとした「にこはぴきっず NHKキャラクターとあそぼう」や、健康麻雀「東一曲」の1号店をそれぞれオープンいたしました。

当期は8店舗の新規出店と、42店舗の店舗活性化を実施いたしました。活性化店舗の売上高は前年比15.0%増と着実にその効果が表れております。

以上の結果、国内事業における当期の業績は、売上高588億19百万円（前期比7.8%増）、営業利益56億28百万円（同52.7%増）となりました。

【中国事業】

中国事業は、当期において新たに江西省、福建省へ進出し44店舗の新規出店を行い、2018年2月末の店舗数は200店舗となりました。

アプリ会員システムの会員数は2月末で約136万人と順調に増加しております。また、今後中国でのキャッシュレス化進行をにらみ、店舗におけるキャッシュレス化の実験を実施するなど、新たな取組みにも着手いたしました。

以上の結果、中国事業における当期の業績は、売上高90億40百万円（前期比26.0%増）、営業利益3億4百万円（同53.3%増）となりました。

【アセアン事業】

アセアン事業は、当期に34店舗の新規出店を行いました。マレーシアは当期の売上高既存店伸び率が9.8%増と好調を維持しており、営業利益も大幅に増益となっております。また、フィリピン、インドネシアともに営業利益の増益を着実に確保しております。タイは売上高既存店伸び率が16.2%増と順調に回復しており、営業損失は前期から改善いたしました。また、新会社を設立したベトナムにおいては、イオンベトナムから12月までに全9店舗の譲り受けを完了し直営化いたしました。

以上の結果、アセアン事業における当期の業績は、売上高46億87百万円（前期比41.0%増）、営業利益42百万円（前期営業損失1億15百万円）と黒字化を達成いたしました。

【セグメント別概況】

当連結会計年度におけるセグメントごとの部門別売上高は、次のとおりであります。

セグメントの名称	第21期 (2017年2月期)		第22期 (2018年2月期)	
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)
(国内)				
遊戯機械売上高	44,137	67.8	48,485	67.2
商品売上高	9,935	15.3	9,498	13.2
委託売上高	147	0.2	147	0.2
遊戯施設関係	54,220	83.3	58,130	80.5
その他	337	0.6	315	0.5
小計	54,557	83.9	58,446	81.1
(中国)				
遊戯機械売上高	7,175	11.0	9,040	12.5
委託売上高	—	—	—	—
遊戯施設関係	7,175	11.0	9,040	12.5
小計	7,175	11.0	9,040	12.5
(アセアン)				
遊戯機械売上高	3,251	5.0	4,581	6.3
委託売上高	74	0.1	106	0.1
遊戯施設関係	3,325	5.1	4,687	6.4
小計	3,325	5.1	4,687	6.4
合計	65,058	100.0	72,174	100.0

- (注) 1. 遊戯機械売上高は、メダルゲーム機、乗り物等の遊戯機械による収入であります。
 2. 商品売上高は、カード、玩具、飲食物等の販売による収入であります。
 3. 委託売上高は、店内の業者委託の飲食店および遊具施設の運営委託に係る手数料収入等であります。
 4. その他は、遊戯機械、備品、景品等の販売収入、ロイヤリティ収入等であります。
 5. 国内事業の売上高には内部売上高が含まれておりません。

【社会貢献・環境保全活動の状況】

当社および当社子会社は、社会貢献・環境保全活動を積極的に推進し、企業価値を継続的に高めるとともに、よき企業市民として地域社会の発展に貢献できるよう取り組んでおります。

当社は「ファンタジースマイルデーあそんで募金」として、毎月11日に対象の遊戯機械売上の10%相当額を「震災復興支援活動」、「子ども支援活動」、「環境保全活動」の活動資金とする取組みを継続実施しております。

震災復興支援活動では、特定非営利活動法人キッズデザイン協議会における「子どもたちの元気プロジェクト」の活動支援金として寄附を行いました。また、2017年5月には東日本大震災の被災地3県（岩手県、宮城県、福島県）の子ども育英基金に寄附を行なうとともに熊本地震復興支援として熊本県に寄附を行いました。

子ども支援活動では、地域の社会福祉施設等への訪問や子どもたちの無料招待会を日本、中国、マレーシア、タイ、フィリピン、インドネシア、ベトナムで延べ470回実施しております。

また、環境保全活動では、公益信託経団連自然保護基金を通じニホンヤマネ保護のため、ニホンヤマネ保護研究グループへの寄附を継続実施しております。

そのほか、「公益財団法人イオンワンパーセントクラブ」を通じた活動として、「次代を担う青少年の健全な育成」、「諸外国との友好親善の促進」、「地域・社会の持続的発展」への使途を目的とした寄附を行いました。

② 設備投資の状況

当期は新規出店86店舗と既存店舗の改装および遊戯機械の入替投資等を実施し、設備投資額は123億42百万円となりました。この資金は自己資金と借入金で賄っております。

③ 資金調達の状況

特に記載すべき事項はありません。

④ 事業の譲渡、吸収分割または新設分割の状況

該当事項はありません。

⑤ **他の会社の事業の譲受けの状況**

該当事項はありません。

⑥ **吸収合併または吸収分割による他の法人等の事業に関する権利義務の承継の状況**

該当事項はありません。

⑦ **他の会社の株式その他の持分または新株予約権等の取得または処分の状況**

該当事項はありません。

(2) 財産および損益の状況

① 企業集団の財産および損益の状況

区 分	第 19 期 (2015年2月期)	第 20 期 (2016年2月期)	第 21 期 (2017年2月期)	第 22 期 (2018年2月期)
売上高(千円)	46,632,460	58,831,621	65,058,883	72,174,439
経常利益(千円)	3,417,873	2,630,682	3,498,530	5,598,257
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	1,338,232	1,480,480	1,697,672	2,986,285
1株当たり当期純利益(円)	73.76	76.70	86.18	151.53
総資産(千円)	30,041,012	41,040,684	43,328,726	46,928,461
純資産(千円)	21,608,591	24,744,072	25,619,857	28,369,063
1株当たり純資産(円)	1,170.74	1,239.44	1,283.33	1,409.05

- (注) 1. 1株当たり当期純利益は、期中平均発行済株式総数に基づき算出しております。
 2. 1株当たり純資産は、期末発行済株式総数に基づき算出しております。
 3. 従来、商品の評価方法を売価還元平均原価法によっておりましたが、第20期より、移動平均法に変更したため、第19期については、当該会計方針の変更を反映した遡及修正後の数値を記載しております。

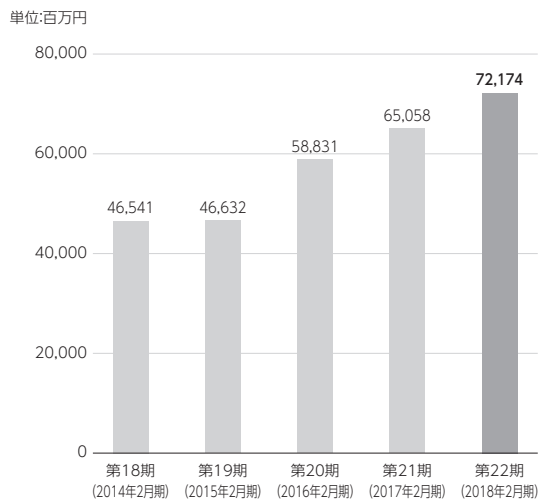
② 当社の財産および損益の状況

区 分	第 19 期 (2015年2月期)	第 20 期 (2016年2月期)	第 21 期 (2017年2月期)	第 22 期 (2018年2月期)
売上高(千円)	41,179,680	49,871,969	54,575,371	58,819,911
経常利益(千円)	3,730,913	2,736,910	3,622,309	5,500,182
当期純利益(千円)	1,701,920	1,384,185	1,116,400	3,224,803
1株当たり当期純利益(円)	93.80	71.71	56.67	163.63
総資産(千円)	27,870,481	32,706,954	33,011,728	36,025,892
純資産(千円)	21,320,271	25,237,131	25,776,845	28,396,514
1株当たり純資産(円)	1,171.09	1,276.94	1,303.46	1,434.74

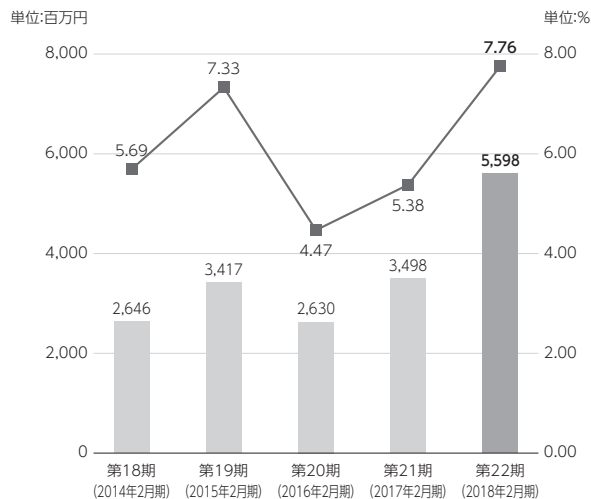
- (注) 1. 1株当たり当期純利益は、期中平均発行済株式総数に基づき算出しております。
 2. 1株当たり純資産は、期末発行済株式総数に基づき算出しております。
 3. 従来、商品の評価方法を売価還元平均原価法によっておりましたが、第20期より、移動平均法に変更したため、第19期については、当該会計方針の変更を反映した遡及修正後の数値を記載しております。

[ご参考 (企業集団の業績ハイライト)]

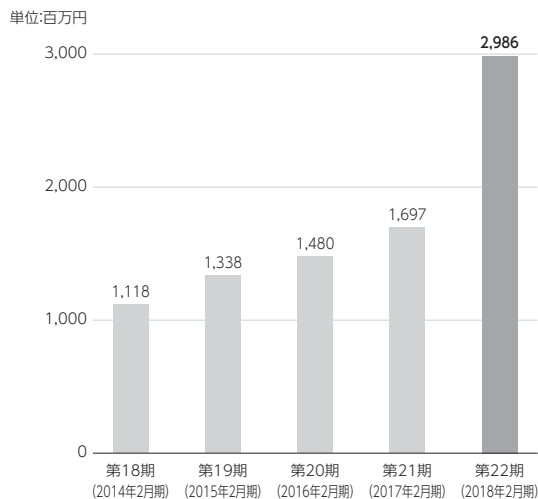
売上高



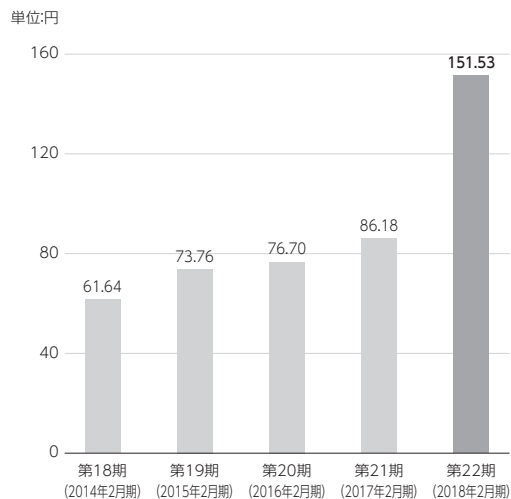
経常利益及び売上高経常利益率



親会社株主に帰属する当期純利益



1株当たり当期純利益



(3) 対処すべき課題

① 成長拡大への取組み

2019年2月期は、好調が続く国内事業において遊戯機械の品揃えを更に拡充し、確実に増益を図るとともに、インドアプレイグラウンド等の新業態の開発や、新たに開始したネットクレーンゲーム事業の確立を図ってまいります。また、中国事業およびアセアン事業において100店舗以上の積極出店を計画し更なる拡大を推進してまいります。

国内、海外を含めた圧倒的な店舗数を背景に、中期経営計画の基本戦略である「世界中の面白い遊びと自ら創出した新しい遊びを、ブランディングされた安全安心な空間でお客さまに提供する」ために、「1. 他社に真似できない商品の拡大 2. ブランディングの推進 3. インドアプレイグラウンド事業の進化と拡大 4. アジアシフトの加速 5. 新規取組みへのたゆまぬ挑戦」を重要な取組み事項と位置付け、成長拡大に向け邁進してまいります。

② ダイバーシティの推進

当社は、成長の原動力は「人財」であるとの認識のもと、持続的成長のためには多様な価値観を活かす「ダイバーシティ経営の推進」が重要な戦略であるにとらえ、積極的に取り組んでおります。

女性活躍については、店舗の責任者をはじめ管理職への女性登用を積極的に行なっているほか、両立支援制度の充実や管理職のダイバーシティに関する意識を高める教育等を進めております。

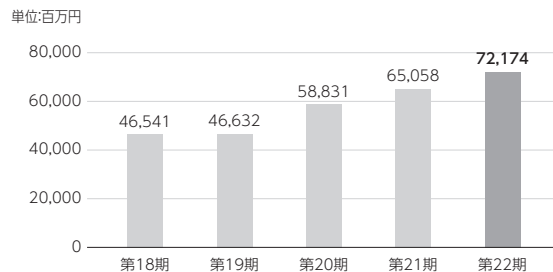
当期は、ベビーシッター利用補助制度など両立支援制度を拡充すると共に、女性だけでなく多様な人材が活躍できる風土づくりを進めるために管理職を中心に「ユニバーサルマナー研修」、「アンコンシャスバイアス研修」等の教育を行ないました。

今後も新しい遊びを提案しつづけるために、ダイバーシティ経営の取組みを推進いたします。

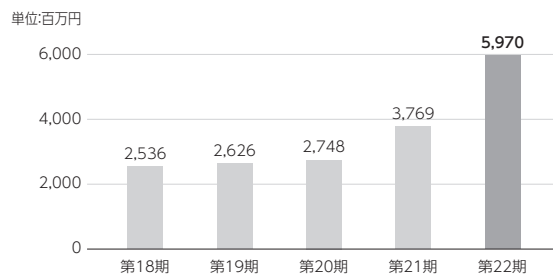
数字で見るイオンファンタジー

売上高	72,174 百万円
営業利益	5,970 百万円
国内店舗数	459 店舗
中国店舗数	200 店舗
アセアン店舗数	189 店舗

売上高

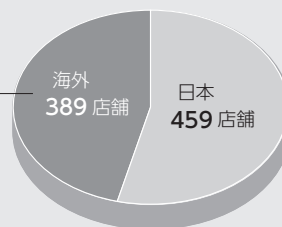


営業利益



店舗数 848店舗 (2018年2月末)

中国	200 店舗
マレーシア	85 店舗
タイ	39 店舗
フィリピン	39 店舗
インドネシア	15 店舗
ベトナム	9 店舗
カンボジア	2 店舗



(4) **主要な事業内容** (2018年2月28日現在)

当社グループは、主としてアミューズメント施設およびインドアプレイグラウンドを営んでおります。

(5) **主要な営業所** (2018年2月28日現在)

国内 都道府県別店舗数

都道府県	店舗数	都道府県	店舗数
北海道	26	和歌山県	4
青森県	12	奈良県	7
岩手県	9	滋賀県	5
秋田県	9	京都府	8
宮城県	13	大阪府	30
山形県	7	兵庫県	29
福島県	7	岡山県	4
新潟県	11	広島県	6
茨城県	8	鳥取県	6
群馬県	6	島根県	3
栃木県	8	山口県	3
埼玉県	20	徳島県	2
千葉県	26	香川県	4
東京都	17	愛媛県	4
神奈川県	24	高知県	1
山梨県	3	福岡県	22
静岡県	10	佐賀県	3
長野県	8	大分県	3
愛知県	27	長崎県	8
岐阜県	6	宮崎県	6
三重県	15	熊本県	6
富山県	4	鹿児島県	4
石川県	4	沖縄県	8
福井県	3	合計	459

(注) 上記459店舗 (うち2店舗はF C) のほか、本社事務所 (千葉市美浜区) があります。

海外 国別店舗数

国名	店舗数
中国	200
マレーシア	85
タイ	39
フィリピン	39
インドネシア	15
ベトナム	9
カンボジア	2
合計	389

(注) 上記389店舗（うち6店舗はF C等）のほか、海外子会社の本社事務所（中国、マレーシア、タイ、フィリピン、インドネシア、ベトナム）があります。

(6) 重要な親会社および子会社の状況

① 親会社の状況

当社の親会社はイオン株式会社であり、同社は子会社を含めたグループで当社の議決権の68.68%（直接保有65.68%）を保有しております。

② 親会社等との取引に関する状況

当社は、イオン株式会社を親会社とし、同社を中心とする企業集団に属しております。

(i) 当該取引をするに当たり当社の利益を害さないように留意した事項

当社は、親会社等から店舗の賃借をしており、取引を実施するに当たっては、一般的な取引と同様に市場相場に基づき交渉のうえ、合理的な判断に基づき決定しております。

(ii) 当該取引が当社の利益を害さないかどうかについての当社の取締役会の判断および理由

当該取引に当たっては、法令、社内規程に基づき、取締役会における議論を経て、取引条件が一般的な取引と同様であること等を確認のうえ、実施の可否を決定しており、当社取締役会は当社の利益を害することはないと判断しております。

(iii) 取締役会の判断が社外取締役の意見と異なる場合の当該意見

該当事項はありません。

③ 重要な子会社の状況

当社の重要な連結子会社は以下のとおりであります。

- ・永旺幻想（中国）児童遊樂有限公司
- ・AEON FANTASY (MALAYSIA) SDN.BHD.
- ・AEON Fantasy (Thailand) Co.,Ltd.
- ・AEON FANTASY GROUP PHILIPPINES,INC.
- ・PT.AEON FANTASY INDONESIA
- ・AEON FANTASY VIETNAM CO.,LTD.

(注) AEON FANTASY VIETNAM CO.,LTD.は2017年7月に当社子会社として設立いたしました。

(7) 使用人の状況（2018年2月28日現在）

① 企業集団の使用人の状況 1,617 (6,150) 名 前連結会計年度末比 238名増 (345名増)

- (注) 1. パートタイマーおよび契約社員は（ ）内に、年間の平均人員を外数で記載しております。ただし、1日の勤務時間は8時間換算で計算しております。
2. 使用人数の増加は、主に海外子会社における店舗数の増加によるものであります。

② 当社の使用人の状況

使用人数	前事業年度末比増減	平均年齢	平均勤続年数
271 (3,788) 名	8名減 (58名増)	40才7ヶ月	12年10ヶ月

- (注) 1. 使用人数は、就業人員（当社からの出向者を含まず、当社への出向者を含む）であります。
2. パートタイマーおよび契約社員は（ ）内に、年間の平均人員を外数で記載しております。ただし、1日の勤務時間は8時間換算で計算しております。

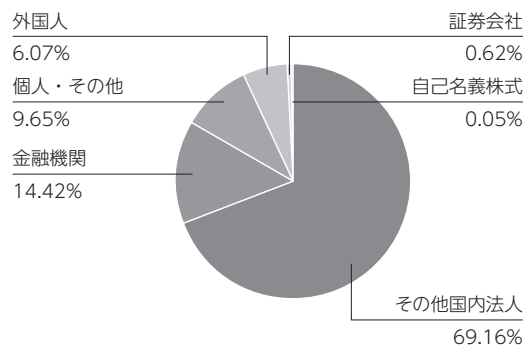
2. 株式の状況（2018年2月28日現在）

- | | |
|----------------|-------------|
| (1) 発行可能株式総数 | 50,000,000株 |
| (2) 発行済株式の総数 | 19,713,825株 |
| (3) 株主数 | 11,181名 |
| (4) 大株主（上位11名） | |

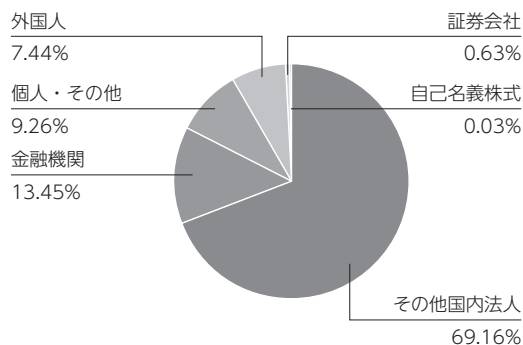
株主名	持株数	持株比率
イオン株式会社	12,911千株	65.52%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	1,159	5.88
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	634	3.22
資産管理サービス信託銀行株式会社（証券投資信託口）	192	0.98
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口9）	168	0.86
G O V E R N E M E N T O F N O R W A Y （常任管理人 シティバンク銀行株式会社）	167	0.85
G O L D M A N S A C H S I N T E R N A T I O N A L （常任管理人 ゴールドマン・サックス証券株式会社）	117	0.59
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口5）	117	0.59
マックスバリュ西日本株式会社	114	0.58
イオンフィナンシャルサービス株式会社	114	0.58
イオンモール株式会社	114	0.58

（注）持株比率は自己株式（6,466株）を控除して計算しております。

所有者別株式保有状況（2017年2月期）



所有者別株式保有状況（2018年2月期）



3. 当社の新株予約権等に関する事項

事業年度末日における当社役員が保有している職務執行の対価として交付された新株予約権の状況

名称 (発行日)	行使期間	保有者	新株予約権 の数	目的となる 株式の数	保有者数	発行価額	行使価額
第5回新株予約権 (2012年4月21日)	2012年5月21日 ～ 2027年5月20日	取締役	15個	1,500株	1名	1株当たり1,041円	1株当たり1円
第6回新株予約権 (2013年5月10日)	2013年6月10日 ～ 2028年6月9日	取締役	51個	5,100株	3名	1株当たり1,756円	1株当たり1円
第7回新株予約権 (2014年5月10日)	2014年6月10日 ～ 2029年6月9日	取締役	61個	6,100株	5名	1株当たり1,049円	1株当たり1円
第8回新株予約権 (2015年5月10日)	2015年6月10日 ～ 2030年6月9日	取締役	133個	13,300株	6名	1株当たり1,724円	1株当たり1円
第9回新株予約権 (2016年5月10日)	2016年6月10日 ～ 2031年6月9日	取締役	49個	4,900株	6名	1株当たり2,359円	1株当たり1円
第10回新株予約権 (2017年5月10日)	2017年6月10日 ～ 2032年6月9日	取締役	94個	9,400株	6名	1株当たり2,796円	1株当たり1円

新株予約権の行使の条件(各回共通)

- ・新株予約権を割り当てられた者は、権利行使時においても当社の取締役または監査役の地位にあることを要する。ただし、当社の取締役および監査役を退任した場合であっても、退任日から5年以内に限り権利行使できるものとする。
- ・新株予約権については、その数の全数につき一括して行使することとし、これを分割して行使することはできないものとする。

当社従業員の保有状況

	新株予約権の数	目的となる株式の数	保有者数
取締役(社外取締役を除く)	403個	40,300株	6名
監査役	0個	0株	0名
発行時の割当対象者	当社取締役		

(注) 当初付与した新株予約権の数は、第1回新株予約権は52個、第2回新株予約権は98個、第3回新株予約権は99個、第4回新株予約権は215個、第5回新株予約権は148個、第6回新株予約権は158個、第7回新株予約権は82個、第8回新株予約権は158個、第9回新株予約権は65個、第10回新株予約権は111個であります。

なお、2018年4月11日開催の取締役会決議で、当事業年度に係る職務執行の対価として当社取締役に対して、株式会社イオンファンタジー第11回新株予約権を2018年5月10日に発行することといたしました。その主要な事項は次のとおりであります。

- (1) 新株予約権の数
77個
ただし、新株予約権割当日（発行日）において計算した株式報酬型ストックオプション公正価値分は取締役報酬額の上限内で総数を決定するものとします。
- (2) 新株予約権の目的である株式の種類および数
普通株式7,700株（新株予約権1個につき100株）
- (3) 新株予約権の発行価額
割当日における会計上の公正な評価額
- (4) 新株予約権の行使価額
1株当たり1円
- (5) 新株予約権の行使期間
2018年6月10日から2033年6月9日まで
- (6) 新株予約権の行使の条件
株式会社イオンファンタジー第1回新株予約権と同様
- (7) 交付される者の人数
当社取締役 8名（社外取締役を除く）

4. 会社役員 の 状 況

(1) 取締役および監査役の状況 (2018年2月28日現在)

氏 名	地 位 お よ び 担 当	重 要 な 兼 職 の 状 況
片 岡 尚	代表取締役社長	イオンエンターテイメント株式会社 代表取締役社長
新 田 悟	常務取締役(管理統括兼リスクマネジメント担当)	永旺幻想(中国)児童遊楽有限公司監事 AEON FANTASY GROUP PHILIPPINES,INC. 取締役 PT.AEON FANTASY INDONESIA監査役 AEON FANTASY VIETNAM CO.,LTD.監査役
藤 原 徳 也	常務取締役(グローバル商品・新規事業統括)	
田 村 純 宏	取締役(開発本部長)	
梶 田 茂	取締役(営業統括)	
高 野 恭 子	取締役(人事総務本部長)	
藤 原 信 幸	取締役(中国事業責任者)	永旺幻想(中国)児童遊楽有限公司董事長
小 岩 涉	取締役(アセアン事業責任者兼インドアプレイグラウンド事業部長)	AEON FANTASY (MALAYSIA) SDN.BHD. 取締役会長 AEON Fantasy (Thailand) Co.,Ltd.取締役 PT.AEON FANTASY INDONESIA取締役 AEON FANTASY GROUP PHILIPPINES,INC. 取締役
大 矢 和 子	取締役	公益財団法人資生堂社会福祉事業財団理事長 朝日生命保険相互会社社外取締役 株式会社エムティーアイ社外監査役 株式会社ミライト社外監査役 国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構監事
小 風 明	取締役	国際剣道連盟理事 日本オリンピック委員会理事 明治安田生命保険相互会社顧問 全日本剣道連盟監事 日本スポーツ仲裁機構理事
藤 原 雄 三	常勤監査役	イオンエンターテイメント株式会社社外監査役
中 野 信 雄	監査役	
平 野 雅 彦	監査役	
杉 本 茂 次	監査役	日鉄住金物産株式会社社外監査役 株式会社イオン銀行社外監査役

- (注) 1. 永旺幻想(中国)児童遊楽有限公司、AEON FANTASY (MALAYSIA) SDN.BHD.、AEON Fantasy (Thailand) Co.,Ltd.、PT.AEON FANTASY INDONESIA、AEON FANTASY GROUP PHILIPPINES,INC.、AEON FANTASY VIETNAM CO.,LTD.は、当社の子会社であります。
2. イオン株式会社は、当社の親会社であり、イオンエンターテイメント株式会社、株式会社イオン銀行は、イオン株式会社の子会社であります。
3. 取締役大矢和子氏および小風明氏は、社外取締役および東京証券取引所の定めに基づく独立役員であります。

4. 常勤監査役藤原雄三氏および監査役杉本茂次氏の2名は、社外監査役であります。なお、杉本茂次氏は東京証券取引所の定めに基づく独立役員であります。
5. 監査役平野雅彦氏は、財務経理に関する職務経験が豊富であり、財務および会計に関する相当程度の知見を有するものであります。
6. 監査役杉本茂次氏は、公認会計士として、財務経理に関する職務経験が豊富であり、財務および会計に関する相当程度の知見を有するものであります。
7. 当事業年度中における取締役の担当の異動は次のとおりであります。

氏名	地位および新担当	地位および旧担当	異動年月日
藤原 徳也	取締役(グローバル商品・新規事業統括)	取締役(商品開発本部長)	2017年3月1日
藤原 徳也	常務取締役(グローバル商品・新規事業統括)	取締役(グローバル商品・新規事業統括)	2017年5月19日
田村 純宏	取締役(開発本部長)	取締役(営業統括)	2017年5月19日
梶田 茂	取締役(営業統括)	取締役(西日本営業本部長)	2017年5月19日

(2) 当事業年度中に退任した取締役

氏名	退任日	退任理由	退任時の地位および担当
林 克己	2017年5月19日	任期満了	専務取締役(開発本部長)
神谷 和秀	2017年5月19日	任期満了	取締役
人見 信男	2017年5月19日	任期満了	取締役

(3) 取締役および監査役に対する報酬等の総額

区分	支給人数	支給額
取(うち社外取締役)役	12名 (3名)	186百万円 (7百万円)
監(うち社外監査役)役	2名 (2名)	17百万円 (17百万円)

- (注) 1. 当事業年度末日現在の取締役は10名(うち社外取締役は2名)、監査役は4名(うち社外監査役は2名)であります。上記の取締役および監査役の支給人数と相違しておりますのは、2017年5月19日開催の第21回定時株主総会終結の時をもって退任した取締役2名が含まれることと、無報酬の取締役が1名および無報酬の監査役が2名存在しているためです。
2. 取締役の支給額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。
 3. 取締役の報酬には、業績報酬、株式報酬型ストックオプションによる報酬が含まれております。なお、株式報酬型ストックオプションによる報酬は第22期の業績に基づき、2018年4月11日開催の取締役会決議で、2018年5月10日に発行することといたしました。支給額は2018年2月28日の当社株式の東京証券取引所における終値に基づいて算定しております。

(4) 責任限定契約の内容の概要

当社は、取締役大矢和子氏、取締役小風明氏および監査役杉本茂次氏との間で、会社法第423条第1項の責任につき、善意でかつ重大な過失がないときは、法令が規定する額を限度額として責任を負担する旨の契約を締結しております。

(5) 社外役員に関する事項

① 他の法人等の重要な兼職の状況および当社と当該他の法人等との関係

取締役大矢和子氏は、公益財団法人資生堂社会福祉事業財団理事長、朝日生命保険相互会社社外取締役、株式会社エムティーアイ社外監査役、株式会社ミライト社外監査役、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構監事であります。なお、当社と各当該兼職先との間には特別な関係はありません。

取締役小風明氏は、国際剣道連盟理事、日本オリンピック委員会理事、明治安田生命保険相互会社顧問、全日本剣道連盟監事、日本スポーツ仲裁機構理事であります。なお、当社と各当該兼職先との間には特別な関係はありません。

常勤監査役藤原雄三氏は、イオンエンターテイメント株式会社社外監査役であります。なお、当社と当該兼職先との間には特別な関係はありません。

監査役杉本茂次氏は、日鉄住金物産株式会社社外監査役、株式会社イオン銀行社外監査役であります。なお、当社と各当該兼職先との間には特別な関係はありません。

② 当事業年度における主な活動状況

区分	氏名	主な活動状況
取締役	大矢和子	当事業年度開催の取締役会18回のうち16回に出席し、豊富な経験および幅広い見識等を生かし、大所高所の立場から、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための発言を行っております。
取締役	小風明	2017年5月19日に取締役就任後、当事業年度開催の取締役会15回すべてに出席し、豊富な経験および幅広い見識等を生かし、大所高所の立場から、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための発言を行っております。
常勤監査役	藤原雄三	当事業年度開催の取締役会18回すべてに出席し、豊富な企業経営経験および幅広い見識等を生かし、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っております。また、監査役会14回すべてに出席し、適宜必要な発言を行っております。
監査役	杉本茂次	当事業年度開催の取締役会18回のうち17回に出席し、豊富な経験や高い見識等に基づいた客観的かつ広範な視野から、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っております。また、監査役会14回のうち11回に出席し、適宜必要な発言を行っております。

- ③ 親会社等または当該親会社等の子会社等(当社を除く)から役員として受けた報酬等の総額
930万円。

5. 会計監査人の状況

- (1) 名称 有限責任監査法人トーマツ

(2) 報酬等の額

区 分	支 払 額
当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額	54,000千円
当社および子会社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額	55,000千円

- (注) 1. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できませんので、公認会計士法第2条第1項の業務に係る報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。
2. 当事業年度に係る会計監査人の報酬以外に、前事業年度に係る追加報酬として当事業年度中に支出した額が1,000千円あります。
3. 監査役会は、取締役等および会計監査人から必要な資料を入手し、かつ報告、説明を受けました。また、会計監査人の監査計画の内容および監査職務の遂行状況、報酬見積の算出根拠を確認しました。これらのことを踏まえ、今後も決算体制を検証し、監査報酬のより一層の適正化を図っていくことをあわせて確認し、当事業年度における監査報酬額に対して同意しました。
4. 当社の子会社は、当社の会計監査人以外の監査法人の監査を受けています。

(3) 非監査業務

該当事項はありません。

(4) 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

監査役会は、会計監査人が次に掲げる事項に該当すると判断した場合には、会計監査人の解任または不再任を決定します。

- ①会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると判断される場合
- ②会社法、公認会計士法等の法令違反による懲戒処分や監督官庁からの処分を受けた場合
- ③会計監査人への信頼を著しく失わせる重大な事由が発生したと認められる場合

6. 業務の適正を確保するための体制および当該体制の運用状況

(1) 業務の適正を確保するための体制

取締役の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制その他会社の業務の適正を確保するための体制について、取締役会において「内部統制システムの構築に関する基本方針」を決議し運用を行っており、その内容は以下のとおりであります。

① 当会社および子会社の取締役および使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

- (i) 当会社および子会社は、より良い地域社会との関係を構築し、企業としての社会的責任を果たすとともに、コンプライアンス経営を重視したイオン行動規範を遵守することを、取締役および全従業員に徹底する。
- (ii) 当会社は、代表取締役を委員長とする内部統制委員会を設置し、コンプライアンスおよびリスクマネジメントを推進するとともに内部監査部門、監査役と連携しコンプライアンス経営を維持する体制とする。
- (iii) 当会社は、親会社の内部通報制度に参加しており、当会社に関する事項は当会社の関係役員に通報され、重大な事案は取締役会および監査役会に報告される他、親会社の監査委員会にも報告される。

② 当会社の取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制

社内規程に基づき、各会議議事録は事務局により作成・保管され、取締役の決定に係る決裁書は管理担当部門に適切に保管・管理される。これらの重要文書については、取締役が常時閲覧できる体制とする。

③ 当会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- (i) リスクマネジメント担当を設置し、あらかじめ具体的なリスクを想定・分類をおこない適宜、規程・マニュアル等を制定、改訂して事前に対策を講じる。
- (ii) 有事の際は、社内規程に従い対策本部等を設置し、災害の拡大を防止し、これを最小限に止める体制を整える。また、必要に応じて親会社およびグループ会社と共同・連携した体制をとる。

④ **当社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制**

- (i) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するために、定時取締役会を毎月1回開催するほか、必要に応じて臨時取締役会を開催する。
- (ii) 取締役会等における決定内容については、職務責任権限規程に基づき、業務執行取締役の下、各部門長が適切かつ効率的な業務執行を行う。

⑤ **当社並びにその親会社および子会社から成る、企業集団における業務の適正を確保するための体制**

グループ経営に資する事項は、親会社において報告・協議するが、当社および子会社固有の事項および具体的な施策に関しては、経営の自主性・独自性を保持する。コンプライアンスをはじめとして、各部門が親会社およびグループ会社の関連部門から適宜、情報提供や業務指導を受け、業務の適正を確保する。

(i) 子会社の取締役等の職務の遂行に係る事項の当社への報告に関する体制

当社は、子会社の経営内容を的確に把握するため、社内規程に従い、当社の社長承認または定期的・臨時的に当社取締役会等への報告を求める。

(ii) 子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制

当社の社内規程に基づき、当社のリスク管理体制に準じた自立的なリスク管理体制を構築・運用させるとともに、適切な報告を求める。当社は、当社グループ全体のリスク管理について定める社内規程を策定し、同規程において子会社に緊急事態が発生した場合においても、損失の最小化を図るように管理する。

(iii) 子会社の取締役等の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

当社は、子会社の経営の独立性を尊重しつつ、適切かつ効率的な業務執行を行う体制の構築を支援する。取締役会等における決定内容については、子会社の職務責任権限規程に基づき、子会社取締役の下、各部門長が適切かつ効率的な業務執行を行う。

⑥ **当社の監査役の職務を補助すべき使用人に関する体制と当該使用人の取締役からの独立性に関する事項並びに監査役の当該使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項**

監査役が法令および関連する社内諸規程に定める業務を遂行するために、監査役の職務を補助する使用人を求めた場合、監査役の指揮下に執行部門から独立して配置するとともに、使用人への指示が実効的に行われる体制とする。

- ⑦ **当社の取締役および使用人並びに当会社子会社の取締役、監査役および使用人またはこれらの者から報告を受けた者が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制並びに監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制**
- (i) 当社の取締役および使用人並びに当会社子会社の取締役、監査役および使用人またはこれらの者から報告を受けた者は、監査役に対して定期的、臨時的に法令および社内規程に定められた事項の他、監査役から求められた事項について報告する体制とする。
 - (ii) 当社は、前項の監査役への報告を行った者に対し、当該報告をしたことを理由として不利な取り扱いを行うことを禁止し、その旨を当会社および子会社の取締役、監査役並びに使用人に周知徹底する。
 - (iii) 監査役は、取締役会の他、必要に応じて経営会議その他重要な会議への参加およびその会議資料等の閲覧ができるとともに、監査役の要請があれば直ちに関係書類・資料等が提出される体制とする。
 - (iv) 監査役の職務執行について生じる費用または債務は、請求のあった後速やかにこれに応じる。

⑧ **反社会的勢力排除のための体制**

社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体に対しては、断固としてこれらを排除し、不当な要求や請求には弁護士や警察等とも連携して、全社をあげて組織的に対処する。

(2) **業務の適正を確保するための体制の運用状況**

上記の基本方針に基づいて当期に実施いたしました主な取組みは次の通りでございます。

① **内部統制システム構築に関する基本方針の一部改訂の周知**

当社は、2015年5月26日の当社の取締役会の決議により「内部統制システム構築に関する基本方針」の内容を一部改訂し、代表取締役社長を委員長とする内部統制委員会においてコンプライアンスおよびリスクマネジメントを推進しております。

② **コンプライアンスに関する取組み**

代表取締役社長を委員長とする内部統制委員会、取締役開発本部長を委員長とする風俗適正化法小委員会、商品開発本部長を委員長とする公正取引小委員会を当期においてそれぞれ2回開催し、法令遵守のための施策や活動内容およびその結果を確認のうえ、今後の改善に向けた活動の検討を行いました。

また、コンプライアンス経営を重視した「イオン行動規範」のセミナーを毎年行い、諸法令に関する教育を継続的に実施しており、コンプライアンスに対する活動の周知徹底を行っております。

③ リスクマネジメントに関する取組み

常務取締役管理統括兼リスクマネジメント担当を委員長とするリスクマネジメント委員会を当期において6回開催しており、施設、商品、お客さまの安全を確保するための対応を検討し、設備や運営の改善を行っております。当期は重点項目として6つの重要リスクを設定し、その発生状況を把握し、それらの対策およびリスク低減策を検討し実施いたしました。

また、大規模災害に備えるため「イオングループ総合災害訓練」へ毎年継続して参加し訓練するとともに、全従業員に「防災ハンドブック」を配布し、毎月当社の被災状況共有ツールを活用した訓練と従業員を対象とした安全確認訓練を継続実施しております。

④ 企業集団における業務の適正を確保する体制の運用

当社に子会社からの取締役会議事録は定期的に提出されており、さらに当社取締役会において、定期的に子会社の報告を行いました。

リスクマネジメント委員会において、子会社のリスクマネジメント対応状況を審議し、子会社の損失の最小化を図っております。

また、子会社の基本規程の整備に着手しており、子会社の管理体制の構築が進みました。当期は、業務監査室による子会社監査も実施いたしました。

⑤ 監査役への報告体制ならびに監査が実効的に行われる体制の運用

当社に重大な損害を及ぼすおそれのある事項、内部監査結果、会計監査結果、取締役会等の議事録、内部通報情報等は、監査役へ報告されており、さらに監査役から求められた事項に関しても適切に報告されております。

また、監査役は取締役会、経営会議、内部統制委員会およびその他重要な会議へ参加するとともに、当社および子会社への往査や取締役との意見交換、内部監査部門との情報交換・意見交換を行うなど、監査の実効性の向上を図っております。

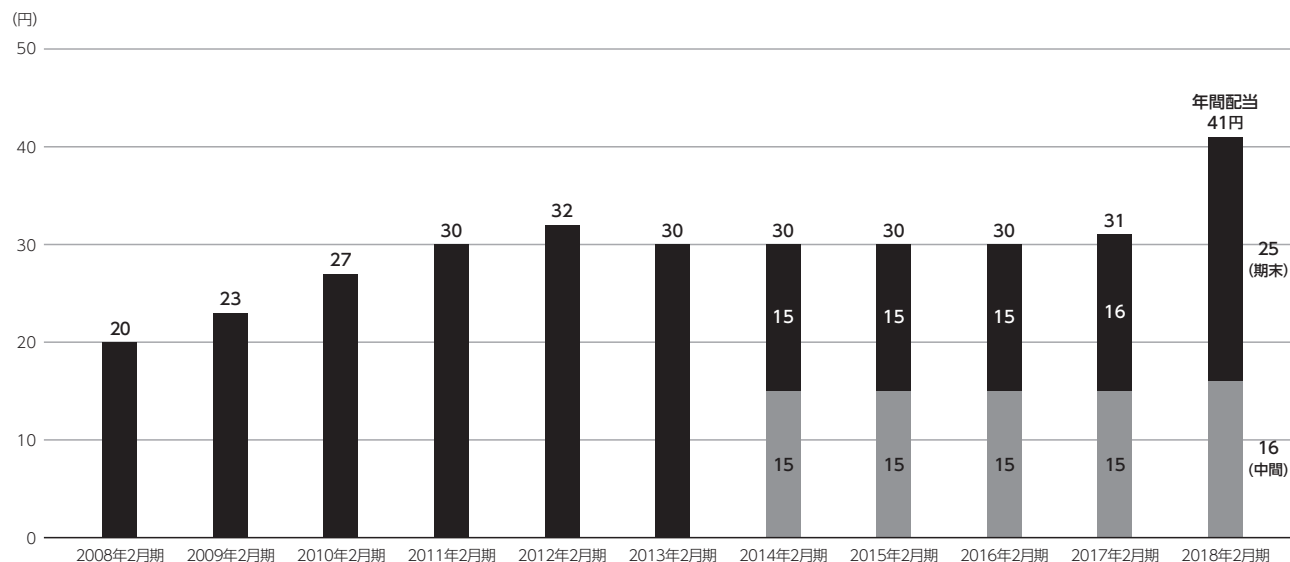
7. 剰余金の配当等の決定に関する方針

当社は、株主の皆さまへの安定的利益還元を経営の最重要目標のひとつとして位置づけており、内部留保の充実と財務体質の強化および、業績、配当性向等を総合的に勘案して、長期的、安定的な利益還元を基本方針としております。内部留保資金につきましては、経営体質の一層の充実を図りつつ、海外出資や既存店への設備投資、新規出店および増床の設備投資等、事業展開の原資として役立ててまいります。

上記方針に基づき、当期の期末配当金につきましては、1株につき普通配当25円とさせていただきます。これにより、中間配当16円とあわせた当期の年間配当金は1株当たり41円とさせていただきます。なお、次期の配当金につきましては、1株につき年間50円を予定しております。

なお、当期の期末配当金は、「配当金お支払のお知らせ」にてご案内のとおり、2018年5月1日（火曜日）からお支払を開始させていただきます。

年間配当金の推移



連結貸借対照表

(2018年2月28日現在)

(単位：千円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
流動資産	10,347,499	流動負債	11,082,660
現金及び預金	4,632,493	買掛金	1,319,659
売掛金	178,789	1年内返済予定長期借入金	933,848
売上預け金	664,069	未払金	979,133
商品	891,109	未払費用	1,973,881
貯蔵品	1,534,853	未払法人税等	1,517,262
関係会社寄託金	500,000	賞与引当金	352,912
繰延税金資産	431,473	役員業績報酬引当金	90,710
その他	1,514,710	設備支払手形	1,842,025
		閉店損失引当金	23,817
		その他	2,049,409
固定資産	36,580,961	固定負債	7,476,737
有形固定資産	30,163,808	長期借入金	6,093,868
建物	8,227,246	退職給付に係る負債	287,891
遊戯機械	19,816,127	資産除去債務	526,238
器具備品	2,040,214	その他	568,738
その他	80,220	負債合計	18,559,398
無形固定資産	1,060,055	純資産の部	
のれん	382,047	株主資本	28,020,460
ソフトウェア	673,675	資本金	1,747,139
その他	4,333	資本剰余金	4,770,075
投資その他の資産	5,357,096	利益剰余金	21,514,918
投資有価証券	213,380	自己株式	△11,672
敷金及び差入保証金	4,058,795	その他の包括利益累計額	△251,851
繰延税金資産	779,575	その他有価証券評価差額金	20,530
その他	305,345	為替換算調整勘定	△121,510
		退職給付に係る調整累計額	△150,871
		新株予約権	121,670
		非支配株主持分	478,784
		純資産合計	28,369,063
資産合計	46,928,461	負債純資産合計	46,928,461

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

連 結 損 益 計 算 書

(2017年 3 月 1 日から)
(2018年 2 月28日まで)

(単位：千円)

科 目	金	額
売 上		72,174,439
売 上 原 高 価		61,362,929
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		10,811,510
営 業 外 利 益		4,840,772
受 取 利 息	35,778	5,970,737
受 取 保 険 金	15,906	
固 定 資 産 売 却 益	12,765	
預 り 金 の 受 入 益	69,195	
そ の 他 の 利 益	48,474	182,121
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	276,362	
為 替 差 損	5,346	
固 定 資 産 売 却 損	227,941	
そ の 他 の 利 益 損 失	44,950	554,601
特 別 損 失		5,598,257
閉 店 損 失 引 当 金 繰 入 額	23,817	
減 損 損 失	428,375	
店 舗 閉 鎖 損 失	65,604	517,797
税 金 等 調 整 前 当 期 純 利 益		5,080,459
法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税	2,003,773	
法 人 税 等 調 整 額	95,356	2,099,130
当 期 純 利 益		2,981,329
非 支 配 株 主 に 帰 属 す る 当 期 純 利 益		△4,956
親 会 社 株 主 に 帰 属 す る 当 期 純 利 益		2,986,285

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

連結株主資本等変動計算書

(2017年3月1日から
2018年2月28日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本					その他の包括利 益累計額
	資 本 金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株 主 資 本 合 計	その他有価証 券評価差額金
2017年3月1日残高	1,747,139	4,773,715	19,159,207	△17,035	25,663,026	24,047
連結会計年度中の変動額						
剰余金の配当			△630,575		△630,575	
親会社株主に帰属する当期純利益			2,986,285		2,986,285	
自己株式の取得				△2,083	△2,083	
自己株式の処分		△3,639		7,446	3,806	
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)						△3,516
連結会計年度中の変動額合計	-	△3,639	2,355,710	5,363	2,357,434	△3,516
2018年2月28日残高	1,747,139	4,770,075	21,514,918	△11,672	28,020,460	20,530

	その他の包括利益累計額			新 株 予 約 権	非支配株主持分	純資産合計
	為 替 換 算 調 整 勘 定	退職給付に係る 調 整 累 計 額	その他の包括利益 累 計 額 合 計			
2017年3月1日残高	△251,179	△150,064	△377,197	94,436	239,591	25,619,857
連結会計年度中の変動額						
剰余金の配当						△630,575
親会社株主に帰属する当期純利益						2,986,285
自己株式の取得						△2,083
自己株式の処分						3,806
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)	129,668	△806	125,345	27,234	239,192	391,771
連結会計年度中の変動額合計	129,668	△806	125,345	27,234	239,192	2,749,204
2018年2月28日残高	△121,510	△150,871	△251,851	121,670	478,784	28,369,063

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

貸借対照表

(2018年2月28日現在)

(単位：千円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流動資産	6,910,545	流動負債	7,202,528
現金及び預金	2,649,379	買掛金	1,128,935
売掛金	194,999	未払法人税等	1,470,561
売上預け金	610,831	賞与引当金	234,482
商品	635,729	役員業績報酬引当金	90,710
貯蔵品	1,292,329	設備支払手形	1,842,025
関係会社寄託金	500,000	閉店損失引当金	23,817
繰延税金資産	402,125	その他の他	2,411,996
その他の資産	625,151	固定負債	426,850
固定資産	29,115,347	退職給付引当金	65,973
有形固定資産	17,368,456	資産除去債務	349,870
建物	2,611,912	その他の他	11,005
遊戯機械	13,241,521		
器具備品	1,451,028		
その他の資産	63,993		
無形固定資産	280,959	負債合計	7,629,378
ソフトウェア	276,867	純資産の部	
その他の資産	4,092	株主資本	28,254,313
投資その他の資産	11,465,930	資本金	1,747,139
投資有価証券	213,380	資本剰余金	4,770,075
関係会社株式	3,231,888	資本準備金	4,733,086
関係会社出資金	5,190,000	その他資本剰余金	36,988
繰延税金資産	722,449	利益剰余金	21,748,771
敷金及び差入保証金	3,130,932	利益準備金	212,500
その他の他	231,199	その他利益剰余金	21,536,271
投資等損失引当金	△1,253,918	別途積立金	13,000,000
		繰越利益剰余金	8,536,271
		自己株式	△11,672
		評価・換算差額等	20,530
		その他有価証券評価差額金	20,530
		新株予約権	121,670
資産合計	36,025,892	純資産合計	28,396,514
		負債純資産合計	36,025,892

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書

(2017年3月1日から
2018年2月28日まで)

(単位：千円)

科 目	金	額
売上		58,819,911
売上原価		49,867,993
販売費及び一般管理費		8,951,917
営業外収益		3,323,544
営業外費用		5,628,373
受取配当金	5,348	
受取資産の売却益	19,757	
受取資産の売却益	12,765	
受取資産の売却益	15,893	
受取資産の売却益	16,564	70,329
支払利息	10,347	
為替差損	1,209	
固定資産の売却損	185,391	
経常利益	1,571	198,519
特別利益		5,500,182
投資等損失引当金戻入額	153,856	153,856
閉店損失引当金繰入額	23,817	
減損損失	47,418	
関係会社株式評価損	449,715	
店舗閉鎖損	14,715	535,667
税金引前当期純利益		5,118,371
法人税、住民税及び事業税	1,907,879	
法人税等調整額	△14,311	1,893,568
当期純利益		3,224,803

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

株主資本等変動計算書

(2017年3月1日から
2018年2月28日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本							
	資 本 金	資 本 剰 余 金			利 益 剰 余 金			
		資本準備金	その他資本 剰 余 金	資本剰余金 合 計	利益準備金	そ の 他 利 益 剰 余 金		
					別途積立金	繰越利益 剰 余 金	その他利益 剰余金合計	
2017年3月1日残高	1,747,139	4,733,086	40,628	4,773,715	212,500	13,000,000	5,942,043	18,942,043
事業年度中の変動額								
剰余金の配当							△630,575	△630,575
当期純利益							3,224,803	3,224,803
自己株式の取得								
自己株式の処分			△3,639	△3,639				
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)								
事業年度中の変動額合計	-	-	△3,639	△3,639	-	-	2,594,228	2,594,228
2018年2月28日残高	1,747,139	4,733,086	36,988	4,770,075	212,500	13,000,000	8,536,271	21,536,271

	株 主 資 本			評価・換算 差 額 等	新株予約権	純資産合計
	利益剰余金 利益剰余金 合 計	自 己 株 式	株 主 資 本 合 計	その他有価証券 評価差額金		
2017年3月1日残高	19,154,543	△17,035	25,658,362	24,047	94,436	25,776,845
事業年度中の変動額						
剰余金の配当	△630,575		△630,575			△630,575
当期純利益	3,224,803		3,224,803			3,224,803
自己株式の取得		△2,083	△2,083			△2,083
自己株式の処分		7,446	3,806			3,806
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)				△3,516	27,234	23,717
事業年度中の変動額合計	2,594,228	5,363	2,595,951	△3,516	27,234	2,619,668
2018年2月28日残高	21,748,771	△11,672	28,254,313	20,530	121,670	28,396,514

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

連結計算書類に係る会計監査報告

独立監査人の監査報告書

2018年4月9日

株式会社イオンファンタジー

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員
公認会計士 渡 辺 雅 子 ㊞

指定有限責任社員
業務執行社員
公認会計士 杉 本 健太郎 ㊞

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、株式会社イオンファンタジーの2017年3月1日から2018年2月28日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

連結計算書類に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結計算書類に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結計算書類の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結計算書類の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結計算書類の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結計算書類の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社イオンファンタジー及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

計算書類に係る会計監査報告

独立監査人の監査報告書

2018年4月9日

株式会社イオンファンタジー

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 渡 辺 雅 子 ㊞

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 杉 本 健太郎 ㊞

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、株式会社イオンファンタジーの2017年3月1日から2018年2月28日までの第22期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書について監査を行った。

計算書類等に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類及びその附属明細書の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による計算書類及びその附属明細書の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類及びその附属明細書の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

監査役会の監査報告

監 査 報 告 書

当監査役会は、2017年3月1日から2018年2月28日までの第22期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づいて審議した結果、監査役全員の一致した意見として、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

- (1) 監査役会は、当期の監査の方針、職務の分担等の監査計画を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。
- (2) 各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、職務の分担等の監査計画に従い、取締役、内部監査部門、その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、以下の方法で監査を実施いたしました。
 - ① 取締役会その他の重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。又、子会社については、各子会社の取締役及び経営幹部等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。
 - ② 事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社及びその子会社からなる企業集団の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、監査役会が定めた内部統制システムに係る監査役監査の実施基準に準拠し、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。
 - ③ 事業報告に記載されている会社法施行規則第118条第5号イの留意した事項及び口の判断及び理由については、取締役会その他における審議の状況等を踏まえ、その内容について検討を加えました。
 - ④ 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。
- ④ 事業報告に記載されている親会社等との取引について、当該取引をするに当たり当社の利益を害さないように留意した事項及び当該取引が当社の利益を害さないかどうかについての取締役会の判断及びその理由について、指摘すべき事項は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人有限責任監査法人トーマツの監査の方法及び監査の結果は相当であると認めます。

(3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人有限責任監査法人トーマツの監査の方法及び監査の結果は相当であると認めます。

2018年4月10日

株式会社イオンファンタジー 監査役会

常勤監査役（社外監査役）	藤原雄三	㊟
監査役	中野信雄	㊟
監査役	平野雅彦	㊟
監査役（社外監査役）	杉本茂次	㊟

以上

メ モ

A series of 20 horizontal dashed lines for writing.

メ モ

A series of horizontal dashed lines for writing notes, consisting of 18 lines.

株主総会会場のご案内

場所 東京都江東区有明三丁目7番11号
東京ベイ有明ワシントンホテル 三階アイリスの間

TEL 03-5564-0111

交通 最寄駅 **りんかい線 国際展示場駅** 下車 徒歩3分
ゆりかもめ 有明駅 下車 徒歩3分
ゆりかもめ 国際展示場正門駅 下車 徒歩3分

(駐車場のご用意はいたしておりませんのでお車でのご来場はご遠慮くださいますようお願いいたします。)

株主懇親会は開催いたしていません。



木を植えています

私たちはイオンです

株主の皆さまへ

第 22 回定時株主総会招集ご通知に際しての
インターネット開示情報

連結計算書類の連結注記表
計算書類の個別注記表

2018 年 4 月 24 日

株式会社イオンファンタジー
(証券コード 4343)

連 結 注 記 表

【連結計算書類作成のための基本となる重要な事項に関する注記等】

(1) 連結の範囲に関する事項

① 連結子会社の数…………… 7社

② 連結子会社の名称……………永旺幻想（中国）児童遊楽有限公司
AEON FANTASY (MALAYSIA) SDN. BHD.
AEON Fantasy (Thailand) Co., Ltd.
AEON Fantasy Holdings (Thailand) Co., Ltd.
AEON FANTASY GROUP PHILIPPINES, INC.
PT. AEON FANTASY INDONESIA
AEON FANTASY VIETNAM CO., LTD.

当連結会計年度において新たに設立したイオンファンタジーベトナム（AEON FANTASY VIETNAM CO., LTD.）を連結の範囲に含めております。

(2) 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

(3) 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち永旺幻想（中国）児童遊楽有限公司及びAEON FANTASY VIETNAM CO., LTD. の決算日は、12月31日であります。連結決算日現在で本決算に準じた仮決算を行った財務諸表を基礎としております。

他の連結子会社の決算日は連結決算日と一致しております。

(4) 会計処理基準に関する事項

① 資産の評価基準及び評価方法

(イ) 有価証券

その他有価証券

時価のないもの…移動平均法による原価法

(ロ) たな卸資産

商 品……………移動平均法による原価法

(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

貯 蔵 品……………最終仕入原価法

(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

② 減価償却資産の減価償却の方法

(イ) 有形固定資産……………経済的耐用年数に基づく定額法

(リース資産を除く) 各資産別の耐用年数として、下記の年数を採用しております。

建 物 (建 物 附 属 設 備) 3年～18年

遊 戯 機 械 2年～9年

器 具 備 品 2年～10年

(ロ) 無形固定資産……………自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間

(5年) (リース資産を除く) に基づく定額法を採用しております。

(ハ) リース資産……………リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によってお

ります。

③ 重要な引当金の計上基準

(イ) 貸倒引当金……………売上債権等の貸倒れによる損失に備え、貸倒懸念債権等特定の債権

について個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上してお

ります。

- (ロ) 賞与引当金……社員及びフレックス社員（パートタイマー）に支給する賞与に備え、支給見込額のうち当連結会計年度に負担する金額を計上しております。
 - (ハ) 役員業績報酬引当金……役員に対する業績報酬の支給に備えるため、支給見込額のうち当連結会計年度に負担する金額を計上しております。
 - (ニ) 閉店損失引当金……店舗の閉店に伴い発生する損失に備え、店舗閉店により合理的に見込まれる中途解約違約金等の閉店関連損失見込額を計上しております。
- ④ 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準
外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社の資産及び負債は、在外子会社の決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めて計上しております。
- ⑤ のれんの償却方法及び償却期間
効果の発現する期間等（10年間）の定額法により償却を行っております。
- ⑥ その他連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項
- (イ) 退職給付に係る負債の計上基準
従業員の退職給付に備え、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき当連結会計年度末において発生していると認められる額を計上しております。なお、過去勤務費用は発生年度において一括処理し、数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（10年）による定額法により翌連結会計年度から費用処理することとしております。未認識数理計算上の差異については、税効果を調整の上、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。
 - (ロ) 消費税等の会計処理
消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

【追加情報】

（繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用）

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）を当連結会計年度から適用しております。

【連結貸借対照表に関する注記】

- (1) 有形固定資産の減価償却累計額 51,459,773千円
- (2) 売上預け金
ショッピングセンターの店舗賃貸人に預けている売上代金であります。
- (3) 関係会社寄託金
余裕資金の有効活用を目的としてイオン株式会社との間で金銭消費寄託契約を締結しており、当該契約による寄託金であります。
- (4) 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額
その他（投資その他の資産） 2,847千円

【連結損益計算書に関する注記】

(1) 減損損失

当連結会計年度において、以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

① 減損損失を認識した資産グループの概要

用途	種類	地域	店舗数	金額(千円)
店舗	建物等	国内	27	47,418
		中国	18	116,614
		マレーシア	9	37,593
		タイ	12	186,637
その他	遊戯機械	マレーシア	-	6,480
	その他	中国	-	33,631
合計			66	428,375

② 減損損失の認識に至った経緯

営業活動から生ずるキャッシュ・フローが継続してマイナスまたは継続してマイナスとなる見込みである資産グループ、閉店の意思決定を行った資産グループ及び将来の使用が見込まれない遊休資産グループについて、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

③ 減損損失の金額及び主な固定資産の種類ごとの当該金額の内訳

種類	金額(千円)
建物	375,458
遊戯機械	17,793
有形固定資産その他	35,123
合計	428,375

④ 資産のグルーピングの方法

当社グループは事業用資産について、主として店舗を基本単位としてグルーピングしております。

⑤ 回収可能価額の算定方法

当社グループは資産グループの回収可能価額は使用価値又は正味売却価額により算定しております。

(2) 固定資産売却益の内訳

種類	
遊戯機械	12,765千円

(3) 固定資産売却損の内訳

種類	
遊戯機械	227,941千円

【連結株主資本等変動計算書に関する注記】

(1) 発行済株式の種類及び総数に関する事項

	株式の種類	当連結会計年度末株式数
発行済株式	普通株式	19,713,825株

(2) 配当に関する事項

① 配当金支払額

2017年4月12日開催の取締役会において、次のとおり決議しました。

普通株式の配当に関する事項

(イ) 配当金の総額	315,252千円
(ロ) 配当の原資	利益剰余金
(ハ) 1株当たり配当額	16円
(ニ) 基準日	2017年2月28日
(ホ) 効力発生日	2017年5月1日

2017年10月4日開催の取締役会において、次のとおり決議しました。

普通株式の配当に関する事項

(イ) 配当金の総額	315,322 千円
(ロ) 配当の原資	利益剰余金
(ハ) 1株当たり配当額	16 円
(ニ) 基準日	2017年8月31日
(ホ) 効力発生日	2017年11月1日

- ②基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの
2018年4月11日開催の取締役会において、次の議案を付議します。

普通株式の配当に関する事項

(イ) 配当金の総額	492,683 千円
(ロ) 配当の原資	利益剰余金
(ハ) 1株当たり配当額	25 円
(ニ) 基準日	2018年2月28日
(ホ) 効力発生日	2018年5月1日

(3) 新株予約権に関する事項

新株予約権の内訳	新株予約権の目的となる株式の種類	当連結会計年度末株式数
第3回新株予約権	普通株式	800株
第4回新株予約権	普通株式	6,700株
第5回新株予約権	普通株式	10,300株
第6回新株予約権	普通株式	14,300株
第7回新株予約権	普通株式	8,200株
第8回新株予約権	普通株式	15,800株
第9回新株予約権	普通株式	5,800株
第10回新株予約権	普通株式	11,100株
合計		73,000株

【金融商品に関する注記】

(1) 金融商品の状況に関する事項

当社は、設備投資計画に照らして一時的な余資は主に流動性の高い金融資産で運用し、また、必要に応じて短期的運転資金や長期的な設備投資資金を銀行借入により調達しております。売上預け金については顧客の信用リスクを定期的にモニタリングし、取引先ごとに残高を管理しております。敷金及び差入保証金については、差入先の信用リスクの状況を定期的にモニタリングし相手先ごとに残高を管理しております。買掛金はそのほとんどが、1ヶ月以内の支払期日であります。なお、デリバティブ取引は行っておりません。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

2018年2月28日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と思われるものは含まれておりません。

(単位：千円)

	連結貸借対照表計上額 (*)	時 価(*)	差 額
① 現金及び預金	4,632,493	4,632,493	—
② 売掛金	178,789	178,789	—
③ 売上預け金	664,069	664,069	—
④ 関係会社寄託金	500,000	500,000	—
⑤ 敷金及び差入保証金 (1年内返済予定の差入保証金を含む)	4,065,351	3,978,549	△86,802
⑥ 買掛金	(1,319,659)	(1,319,659)	—
⑦ 未払金	(979,133)	(979,133)	—
⑧ 未払法人税等	(1,517,262)	(1,517,262)	—
⑨ 設備支払手形	(1,842,025)	(1,842,025)	—
⑩ 長期借入金 (1年内返済予定の長期借入金を含む)	(7,027,717)	(6,771,130)	△256,586

(*) 負債に計上されているものについては、() で示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法

① 現金及び預金、② 売掛金、③ 売上預け金、④ 関係会社寄託金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

⑤ 敷金及び差入保証金

各契約ごとに、その将来キャッシュ・フローを国債の利回り等適切な指標の利率で割り引いた現在価値を時価にしております。

⑥ 買掛金、⑦ 未払金、⑧ 未払法人税等、⑨ 設備支払手形

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

⑩ 長期借入金

これらは元利金の合計額を、同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区 分	連結貸借対照表計上額
投資有価証券 (非上場株式)	213,380

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから「(2) 金融商品の時価等に関する事項」には含めておりません。

【1株当たり情報に関する注記】

(1) 1株当たり純資産額 1,409円05銭

(2) 1株当たり当期純利益 151円53銭

個 別 注 記 表

【重要な会計方針に係る事項に関する注記】

(1) 資産の評価基準及び評価方法

有価証券

関係会社株式……………移動平均法による原価法

関係会社出資金……………移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のないもの……………移動平均法による原価法

たな卸資産

商 品……………移動平均法による原価法
(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

貯 蔵 品……………最終仕入原価法
(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

(2) 固定資産の減価償却の方法

① 有形固定資産……………経済的耐用年数に基づく定額法

(リース資産を除く) 各資産別の耐用年数として、下記の年数を採用しております。

建物(建物附属設備)	3年～18年
遊 戯 機 械	2年～9年
器 具 備 品	2年～10年

② 無形固定資産……………自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年) (リース資産を除く) に基づく定額法を採用しております。

③ リ ー ス 資 産……………リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

④ 長期前払費用……………定額法

(3) 引当金の計上基準

① 貸 倒 引 当 金……………売上債権等の貸倒れによる損失に備え、貸倒懸念債権等特定の債権について個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

② 賞 与 引 当 金……………社員及びフレックス社員(パートタイマー)に支給する賞与に備え、支給見込額のうち当事業年度に負担する金額を計上しております。

③ 役員業績報酬引当金……………役員に対する業績報酬の支給に備えるため、支給見込額のうち当事業年度に負担する金額を計上しております。

④ 退職給付引当金……………従業員の退職給付に備え、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。なお、過去勤務費用は発生年度において一括処理し、数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(10年)による定額法により翌事業年度から費用処理することとしております。

⑤ 閉店損失引当金……………店舗の閉店に伴い発生する損失に備え、店舗閉店により合理的に見込まれる中途解約違約金等の閉店関連損失見込額を計上しております。

⑥ 投資等損失引当金……………関係会社に対する投資等に伴う損失に備えるため、当該会社の財政状態等を勘案し、必要と認められる額を計上しております。

- (4) その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項
消費税等の会計処理
消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

【追加情報】

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第 26 号 平成 28 年 3 月 28 日)を当事業年度から適用しております。

【貸借対照表に関する注記】

- (1) 有形固定資産の減価償却累計額 43,068,286 千円
- (2) 関係会社に対する金銭債権債務
短期金銭債権額 201,636 千円
短期金銭債務額 38,308 千円
- (3) 売上預け金
ショッピングセンターの店舗賃貸人に預けている売上代金であります。
- (4) 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額
その他(投資その他の資産) 2,847 千円
- (5) 保証債務
子会社の金融機関からの借入金に対して、次のとおり債務保証をしております。
永旺幻想(中国)児童遊楽有限公司 4,372,046 千円
AEON Fantasy (Thailand) Co., Ltd. 342,000 千円
PT. AEON FANTASY INDONESIA 316,000 千円

【損益計算書に関する注記】

(関係会社との取引高)

- 営業取引による取引高
売上高 356,752 千円
販売費及び一般管理費 72,362 千円
営業取引以外の取引高
営業外収益 23,793 千円

(固定資産売却益の内訳)

- 種類
遊戯機械 12,765 千円

(固定資産売却損の内訳)

- 種類
遊戯機械 185,391 千円

【株主資本等変動計算書に関する注記】

当事業年度末における自己株式の種類及び株式数に関する事項

	株式の種類	当事業年度末株式数
自己株式	普通株式	6,466 株

【税効果会計に関する注記】

(1) 繰延税金資産の発生の主な原因別内訳

①流動の部	繰延税金資産	
	未払事業税	110,413千円
	一括償却資産	12,148千円
	賞与引当金	71,986千円
	未払費用	40,888千円
	未払給与	71,387千円
	その他	95,299千円
	繰延税金資産合計	<u>402,125千円</u>
②固定の部	繰延税金資産	
	固定資産	625,593千円
	一括償却資産	3,515千円
	資産除去債務	106,710千円
	投資等損失引当金	382,445千円
	関係会社株式評価損	391,789千円
	その他	31,358千円
	繰延税金資産小計	<u>1,541,413千円</u>
	評価性引当額	<u>△782,028千円</u>
	繰延税金資産合計	<u>759,384千円</u>
	繰延税金負債	
	資産除去債務に対応する除去費用	△27,926千円
	その他有価証券評価差額金	<u>△9,009千円</u>
	繰延税金負債合計	<u>△36,935千円</u>
	繰延税金資産の純額	<u>722,449千円</u>

【関連当事者との取引に関する注記】

(1) 親会社及び法人主要株主等

属性	会社等の名称	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
親会社	イオン(株)	(被所有) 直接65.68% 間接3.00%	資金の寄託運用	寄託金の拋出	500,000	関係会社寄託金	500,000
				寄託金の返還	1,900,000	—	—

(注) 寄託運用の金利は、市場金利を勘案して利率を合理的に決定しております。

(2) 子会社及び関連会社等

属性	会社等の名称	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
子会社	永旺幻想(中国)児童遊楽有限公司.	(所有) 直接100.00%	業務指導 資材の販売 債務保証	遊戯機械等の販売	51,145	売掛金	154
				債務保証(注2)	4,372,046	-	-
				保証料の受入(注2)	3,724	その他の流動資産	1,731
子会社	AEON Fantasy (Thailand) Co., Ltd.	(所有) 直接49.00% 間接51.00%	業務指導 資材の販売 債務保証	債務保証(注2)	342,000	-	-
				保証料の受入(注2)	204	その他の流動資産	51
				出資の引受	711,244	-	-
子会社	PT. AEON FANTASY INDONESIA	(所有) 直接100.00%	業務指導 資材の販売 債務保証	債務保証(注2)	316,000	-	-
				保証料の受入(注2)	68	その他の流動資産	68
子会社	AEON FANTASY VIETNAM CO., LTD.	(所有) 直接65.00%	業務指導 資材の販売	出資の引受	444,509	-	-

(注) 1. 上記取引は、一般的取引と同様、市場価格に基づき交渉のうえ決定しております。

2. 債務保証については、保証形態を勘案して保証料を設定しております。

(3) 兄弟会社等

属性	会社等の名称	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
兄弟会社	イオンリテール(株)	-	店舗の賃借	店舗等の家賃及び 共益費	7,331,932	その他の流動負債	35,824
				売上代金の 一時預け	-	売上預け金	298,252
				敷金及び保証金の 差入	3,393	敷金及び 差入保証金	737,647
兄弟会社	イオン九州(株)	-	店舗の賃借	敷金及び保証金の 返還	3,000	敷金及び 差入保証金	423,324
兄弟会社	イオン北海道(株)	-	店舗の賃借	敷金及び保証金の 差入	-	敷金及び 差入保証金	206,582

(注) 1. 上記取引は、一般的取引と同様、市場価格に基づき交渉のうえ決定しております。

2. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

【1株当たり情報に関する注記】

- (1) 1株当たり純資産額 1,434円74銭
- (2) 1株当たり当期純利益 163円63銭